

安全で安心して暮らせるまちをつくる

「ま ちづくり戦略プロジェクト」の一つである「安全・安心プロジェクト」では、生活基盤の安全・安心を確保し、町民一人ひとりが豊かで潤いのある生活を送ることができるようまちを目指しています。わたしたちが安全で安心して暮らすため、町ではどのような取り組みを行っているのでしょうか。

「安全・安心プロジェクト」には次の3つの項目があります。乳幼児の健診から社会資本の整備まで、ハード、ソフトを問わずに安全で安心して暮らすことのできるまちをつくりたい。

安全・安心プロジェクト

「暮らしの安全・安心」

「地域防災計画」を踏まえ、災害や事故、緊急時といった万一の事態に備えた体制作りを目指します。

「子育ての安全・安心」

子どもが健やかに安心して成長できる環境の整備に努め、保護者も安心して生活できるよう、その環境づくりを目指します。

「社会資本の安全・安心」

日常生活を送るうえで、安心して利用できることはもとより、災害や緊急時においても安全かつ速やかに誘導・避難できるよう、公共施設や輸送道路等の点検・改修・整備を目指します。



キャリア体験学習のため大曲消防署南分署を訪れ、放水訓練などを体験した仙南中学校2年の藤田慶紀さん(写真左)と小林勇人さん(写真右)。二人は「大変だったけど、将来は消防士になりたい」と語ってくれました。

万一の事態に備えて 緊急情報キット「みさと安心パック」

町では、災害が発生したときに高齢者や障がいのある方などの要援護者(※)の避難を支援するために「美郷町災害時等要援護者支援実施計画」を策定しました。この計画に基づき、町・町社会福祉協議会・民生児童委員が協力し、ひとり暮らしの高齢者などを対象に、緊急情報キット「みさと安心パック」の配布を始めました。これは、かかりつけの病院や日ごろ服用している薬の情報などを入れたケースを冷蔵庫に入れておき、災害が発生したときに、駆けつけた支援者がその情報を避難支援や救護に活かすというものです。



※要援護者
ひとり暮らしの高齢者や障がい者、乳幼児など災害発生時や緊急時に一人ですぐ避難するのが困難で、周囲の支援を必要とする方をいいます。

支援や救護に必要な情報を保管する みさと安心パック

緊急情報キット「みさと安心パック」はひとり暮らしの高齢者などが地震や台風などの災害が発生したときに、安全に避難できるよう支援したり救護したりするために必要な「情報」を入れるためのケースです。ケースの中には氏名や住所、電話番号などを書いた用紙を入れます。この用紙には持病やかかりつけの病院、緊急時の連絡先、普段飲んでいる薬の種類などを記入します。さらに、飲んでいる薬の説明書やお薬手帳の写しなど、救護するときに役立つ情報をこの用紙と一緒に入れておくこともできます。

保管場所は冷蔵庫

みさと安心パックを持っていますが、保管している場所がまちまちでは迅速な支援や救護ができません。支援する側にとっては駆けつけたお宅に、みさと安心パックがあるかどうかを瞬時に判断できる仕組みが必要です。そのため、パックはこのご家庭にもある冷蔵庫に保管していただいています。冷蔵庫は他の家財道具に比べて耐久性に優れているため、災害から「情報を守る」ためにも適した保管場所と言えます。

救急医療にも活用できる「こころ」

町や町社会福祉協議会では、昨年、ひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯、障がいのある方など約1700世帯を対象に緊急時の避難支援についてのアンケートを行い、その結果をもとに今年6月下旬から約400世帯にみさと安心パックの配布を始めました。パックの配布と保管方法などの説明は民生児童委員の皆さんが対象となるお宅を直接訪問して行っています。この訪問は対象者の顔や身体的特徴などをあらかじめ確認することになるので、緊急時に、より効果的な支援が期待されます。

みさと安心パックは災害発生時だけでなく、病気やケガなどで救急医療が必要などにも活用することができます。高齢者の救急搬送が増えるなかで、難聴や認知症などで本人の持病や内服薬、連絡先の確認に時間がかかる場合が想定されます。このようなときに、みさと安心パックにより必要な情報が瞬時に確認できるため、搬送中や搬送された病院で、より迅速で効果的な処置を行うことが期待できるのです。6月下旬の配布以降、みさと安心パックにより、かかりつけ医や持病の特定につながった例が1件報告されています。

ひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯は今後も増加することが予想されます。みさと安心パックのような災害や緊急時に備えた仕組みを整える一方で、地域の人たちが身近な支援者として地域ぐるみで見守る体制がますます必要になっていきます。